

# 高齢聴覚障害者の戦争体験の手話語りを活用した授業展開 および一般社会へ向けて聴覚障害者理解のための啓発

宮崎県立都城さくら聴覚支援学校

〒885-0094  
宮崎県都城市都原町 7430番地<http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyakonojo-sd/>

## 1 研究の主旨

聴覚障害のある生徒に視覚的な教材を使って指導することは生徒の理解を促すために大変有効な方法である。そのことを踏まえて、この研究はスタートした。

太平洋戦争が終結してから、60年以上の月日が過ぎようとしている。その間に、実際に戦争を体験してきた方々の記録は数多く作られてきた。その多くは、聴者(聞こえる人)視点の音声による語りを中心に作られている。しかし、聴覚障害者でありながら戦争時代を生き抜いていた高齢者たちも数多い。彼らの手話による戦争体験についての語りを記録した映像はまだ数少ない。あったとしても、聴者視点から撮影されていることがほとんどであるため、手話が読み取りにくい映像であったり、字幕が完全にはついていなかったりなど、聴覚障害者にとっては十分に理解できない映像作品であることがほとんどである。

聴覚障害のある生徒たちに戦争中の体験を知る機会があるか質問してみると、ほとんどの生徒が、そのような機会はないと答える。そんな生徒たちに、教科書に出てくる戦争に関する教材を教えようとしても、伝わりにくく、実際にあったこととして感じてもらうのは難しい。そこで、手話で語る高齢聴覚障害者の体験談の映像を用いることで、「戦時中、聴覚支援学校の生徒は一般の学生とは様々な面で異なっていた。」など、聴者とは違った戦争時代の生活、生き方、戦争に対する思いを知ることができると考えた。また、高齢者の使う手話は、現在の聴覚障害者が使用している一般的な手話とは異なり、当時の時代や文化を背景に作られた、独特のものもある。それによって、時代による手話の変遷もうかがえて、生徒たちの参考になるのではないかと考えた。

そのような聴覚障害者の語り手の多くは高齢のため、話せる人は年々減ってきている。高齢聴覚障害者の中には、「自分たちの戦争体験を語りたい、知ってほしい」という思いをもっている人たちもいる。彼らの話に耳を傾け、その体験を映像記録として保存し、授業をとおして、生徒たちに伝えていくことは、大変意義深いことだと考えた。

そして、戦争を体験したことがない、現在の若い聴覚障害生徒たちが、自分たちの学校の先輩である高齢聴覚障害者が体験してきた戦争について知り、あらためて自分たちで平和の尊さについて考える機会を作るという意味でも、この研究は大切な役割を果たすものと思う。

## 2 研究の対象者

今回の研究に関しては、宮崎県立都城さくら聴覚支援学校の中学部生徒を対象とした。

また、高齢聴覚障害者の戦争体験映像については、実際にインタビューを行い、それを DVD に収め、授業で使用することにした。インタビューを行う高齢聴覚障害者は、できるだけ、宮崎県立都城さくら聴覚支援学校の卒業生とすることで、生徒により身近な印象を与えるようにした。

また、高齢聴覚障害者へのインタビューは、聴覚障害のある教師に手伝ってもらい、より詳しく内容が聞き取れるよう工夫した。また、撮った映像に字幕をつけることで、高齢聴覚障害者の読み取りが難しい手話についても、生徒に理解しやすいようにした。

## 3 研究の内容・方法

まず、聴覚障害のある生徒たちが、戦争についてどの程度興味を持ち、どの程度知っているのかをアンケートをもとに調査するところから研究を始めた。

高齢聴覚障害者の戦争体験語りについては、聴覚障害のある教師のネットワークから、数人を候補に挙げ、インタビューを行い、DVD に収めることにした。

また、実際にその映像を国語科授業に生かす段階では、国語の教科書の中から、戦争を扱った教材をピックアップして、高齢者の戦争体験映像にある言葉や内容について映像とつなげながら教えられるように授業を組み立てていった。

## 4 研究の計画

4月・・・宮崎県立都城さくら聴覚支援学校中学部生徒に対して戦争体験について知る機会があるかという内容のアンケートをとる。

5月・・・高齢聴覚障害者へのインタビュー開始。

戦争体験を語る DVD の作成。(手話、字幕付き)

・・・中学部国語において、戦争を扱った教材のピックアップ。

6月・・・第一回授業実践。中学部2年「字のない葉書」(向田邦子作)東京書籍

7月・・・第一回授業実践の反省。

・・・高齢者聴覚障害者へのインタビュー継続。DVD の改善。

8月・・・戦争を扱った教材の研究を深める。(語句や内容の説明、映像との関連)

9月・・・第二回授業実践。中学部1年「碑」(松山善三編集、広島テレビ制作)

10月・・・研究の成果をまとめる

11月～3月・・・第三回授業実践。

中学部2年「わたしが一番きれいだったとき」(茨木のり子作)

発展的な研究として高齢聴覚障害者の戦争体験語りの DVD を様々な教育活動に活用する。

(国語、社会、英語などの教科、道徳、自立活動など)

5 研究・実践の成果

① 生徒への意識調査

4月に、中学部生徒を対象に、(資料1)のようなアンケートを実施した。

戦争体験に関するアンケート  
中学部 ( ) 年 氏名 ( )

1 あなたはこれまでに戦争を体験した人の話を聞いたり、戦争体験の映像を見たり戦争体験についての学習をしたりしたことがありますか。

ア あります      イ ありません      ウ よくわかりません

2 (ア)と答えた人に聞きます。それはどんな内容でしたか。具体的に書いてください。  
例：戦争中の生活の様子を社会の時間に勉強しました。

3 あなたはこれまでに聴覚障がい者の戦争体験について話を聞いたり、映像を見たり学習をしたりしたことがありますか。

ア あります      イ ありません      ウ よくわかりません

4 (ア)と答えた人に聞きます。それはどんな内容でしたか。具体的に書いてください。  
例：聴覚障がいのあるおばあさんから苦勞談を聞きました。

(資料1)

その結果は次の通りである。

質問内容	結果	傾向・考察
1 戦争体験についての学習	・全員ある	・何らかの形で戦争体験を学んでいる。
2 どのような内容	・社会の教科書で ・テレビ番組で ・本を読んで	・聴者の立場で記録したものを見ていることがほとんどである。
3 聴覚障害者の戦争体験	・知る機会はない	・資料や映像もない
4 聴覚障害者の体験の様子	・具体的内容がわからない	・具体的内容を語り聞かせる場面がない

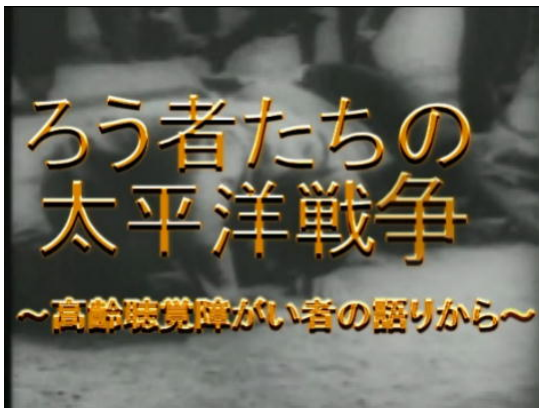
この結果から、聴覚障害者の戦争体験の様子を生徒たちに、具体的に知らせるためには、体験した本人の話を直接聞かせたり、本人の話を記録したものを生徒に見せる必要があると感じた。

② 高齢聴覚障害者へインタビュー

聴覚障害のある職員のネットワークを使って、高齢聴覚障害者で、インタビューに応じてくれそうな方に連絡を取り、実際にその方を訪問して、インタビューを行った。そのインタビューを元に、DVDを作成し、授業などで使いやすいようにした。今回の研究では、国語の授業の際にこのDVDを使用した。今後、他の用途でも使えそうである。インタビューの内容は次のようなものである。

- ・ 聴覚障害者の当時の生活について
- ・ 戦争中の聾学校の様子
- ・ 聴覚障害者ならではの戦時中の苦勞
- ・ 当時考えていたこと
- ・ 現在の生活について
- ・ その他

具体的に作成した DVD の映像の例は、（資料 2）のようなものである。



資料を見てもわかるように、映像には字幕をつけ、手話を読み取るのが苦手な生徒にも内容が伝わるようにした。

また、インタビューに答えてくださった方は生徒と同じ学校の卒業生であり、現在も、県内で生活をされている。その点では、単なる昔話ではなく、自分たちとつながる人の話としてとらえられたのではないかと思われる。

（資料 2）

### ③ 戦争を扱う教材のピックアップ

現在本校で使用している国語の教科書（東京書籍）には、戦争を扱ったものがいくつかある。例えば、中学部 1 年の「碑」（松山善三編集、広島テレビ制作）、中学部 2 年の「字のない葉書」（向田邦子作）、「わたしが一番きれいだったとき」（茨木のり子作）等である。戦争体験を知る機会のない生徒たちが、文章だけで戦争について学んでも実感はわかず、遠い過去のこととして読み流してしまうだけである。そこで、今回作成した生徒たちの先輩でもある高齢聴覚障害者のインタビュー映像を見ながら戦時中の生活や苦勞、楽しみなどを知ること、国語の教科書に出てくる戦争に関する文章をより深く味わわせようとしたものである。

### ④ 国語科授業の実践

ここでは、実践として、中学部 2 年の「字のない葉書」（向田邦子作）を例に説明する。他の戦争を扱った教材についても、授業の流れは同様で、DVD を効果的に見せられるように工夫をした。教科書の内容とつなげるための工夫も必要であると思われたため、出てきた語句と、DVD 中の言葉をつなげて説明することも取り入れた。

中学部2年国語科授業「字のない葉書」(向田邦子作)実践の流れ

- 1 本文を読み、理解の難しい語句について、辞書等を使って調べる。
- 2 理解の難しい言葉の中で、特に戦争に関連した言葉を取り上げ、教師の説明を加える。
  - ・ 戦争に関連した言葉の例  
「終戦」「空襲」「暗幕を垂らした電灯」「当時貴重品だったもの」  
「学童疎開」「質素な食事」「命からがら」「しらみだらけの頭」  
「防水用桶」「文字が書けない人」
- 3 高齢聴覚障害者へのインタビュー映像DVDを生徒に示し、抜き出した戦争関連の語句につながるような場面では、教師の説明を加える。
- 4 教科書の内容が、空想のことではないことを生徒に理解させた上で、内容の読み取りを行う。
- 5 授業の最後に、生徒の感想を聞き、高齢聴覚障害者へのインタビュー映像DVDを使用した効果を確認する。

6 今後の課題、その他

今回の研究では高齢聴覚障害者の戦争体験をインタビューし、DVDを作成した。そのDVDを国語科授業における映像資料として活用することができた。DVDの内容は、生徒たちにとって、身近な人の体験ということで興味深いものであったと思われる。

これまで、教科書やテレビ、書物などからでしか知らなかった戦争体験は、生徒たちにとって、ある意味他人事であり、実際に自分たちの周りでもあったこととして受け止めるのは、難しかった。しかし、今回の研究で作成したDVDでは自分たちと同じ聴覚障害のある人たちの戦時中の苦労が、具体的に理解できて、その苦労が現在につながっているという意識までもつことができたようである。

研究は今後も継続し、高齢聴覚障害者へのインタビューの数を増やし、複数の具体的な場面を生徒に示すことで、当時のイメージをつかみやすくしていきたい。また、DVDを生徒に示す機会を増やすために、国語科授業にとどまらず、道徳の時間や、学級活動の時間、社会科授業の時間などでも活用していきたい。今後の課題についてまとめると次のようになる。

- ・ 高齢聴覚障害者へのインタビュー事例を増やし、具体的な場面を数多く示せるようにしたい。(インタビューできる高齢聴覚障害者の減少が危惧される。)
- ・ 高齢聴覚障害者への戦争体験インタビューDVDを国語科授業だけでなく、他の教科、道徳の時間、学級活動等でも活用していきたい。
- ・ DVDに関しては、生徒たちの感想を元に、字幕の付け方や、映像の撮り方に改善を加え、聴覚障害のある生徒たちにより伝わりやすいようにしていきたい。
- ・ 今回作成したDVD資料は、聴覚障害のある方々の戦時中の生活を伝える資料としても貴重なものであると思われる。今後、聴覚障害者理解の啓発にも使用できるのではないかと思われる。学校外での

使用も検討していきたい。

- ・ 今回の研究では、聴覚障害のある先生のネットワークでインタビューの対象者を探すことができたが、今後、さらに協力者を増やすためにも、作成したDVDについての広報活動も検討してみたい。
- ・ 今回は、数人の協力を得ながら、個人研究という形で論文をまとめたが、研究の範囲を広げ、グループ研究、学校研究、地域での研究というように、発展的な研究活動につなげていくことも視野に入れていきたい。

## 7 終わりに

この研究に取り組んで、戦争という歴史的な事実を子どもたちに伝えていくことの大切さを改めて考えさせられた。

私がたまたま聴覚障害の特別支援学校に勤務しているため、高齢聴覚障害者への戦争体験インタビューが研究の中心になっているが、それだけで終わらせてはいけないような気がする。

戦争を体験した高齢者がだんだんと少なくなる中、何らかの形で、その体験を残していくことは、私たちに与えられた使命であると思われる。

そして、同じ過ちを二度と繰り返さないのはもちろん、現在の生活が過去の人たちの苦労の上に成り立っていることを意識させることも必要である。

そういった意味でも、今回まとめた研究は、その序章に過ぎず、今後も同様の内容で研究を継続していくことは必要であろう。

しかし、この研究は協力者なしには成り立たない。私自身も戦争体験がないため、その苦労を実際のこととして語ることはできない。戦争を体験した高齢者、大変な思いをして生きてきた人達に協力していただきながら、その事実を伝える場や手段を作っていきたい。

最後に、今回の研究に関して協力して下さった方々、特に、聴覚障害のある高齢者の方々、パナソニック教育財団の皆様、に感謝をしながら、この研究のまとめとしたい。